

スパルタンVim 8.0

異世界転生 *Vim*

MURAOKA Taro (KoRoN, @kaoriya)

2019/08/12 発行

異世界転生Vim

(あらすじ: 連日の徹夜で若くして過労死したV君は女神によってそれまで暮らしていた世界とはチョットだけ異なる、vi/vimに代表されるモーダルエディタという概念が生まれなかった世界へ、女神から与えられたとある不思議なスキルと共に転生したのだった。)

オレが異世界へ転生してから今日で25年を迎えた。前世の記憶を持つことと、ある不思議なスキルを持っていること――それ以外は極めて一般的なヒトとして。普通の家庭に生まれ、普通に地方の小中高を卒業し、普通に都会の大学へ行き、普通に就職をした。

異世界とはいうもののこの世界は前世の世界とほとんど変わらない。なにせ両親・友人・同僚・上司、すべてが一緒だ。前世の記憶があったもののそれを大して活かしたわけでもなく、前世とさしたる違いのない人生を歩んでしまっている。いや努力はしたんだ...だが何も変わらない。

ああそうだ。なぜか職場は死ぬほどのブラックではなくなっていた。人使いがあらくホワイトとも言えないが少なくとも過労死するほどではない。

そう世界はほとんど変わっていない。そんな世界でオレはほとんど変わらない2度めの人生をやり直している。ただ今日までVimがこの世に存在しなかった以外は。

前世では生まれたときからVimがある世界に生きていたオレにとっては、ある程度成長してからVimというものを知ったにせよ、とても違和感の強い世界であった。

Vimに限ったことではない。viから始まるモーダルなテキストエディタというものがこの世界には初めから存在していない。モーダルという概念そのものが希薄と言っても良い。暗黙のモードを搭載したソフトウェアが全般に少ないのだ。

ここまで説明していなかった「不思議なスキル」はこのVimに関係する。Vimの無い世界でVimに関連するスキル?何を言っているんだお前はと思うかもしれない。安心してくれオレもそう思う。

そのスキルとは――触れたコンピューターにVimがインストールされ、使いやめると何事も無かったかのようにアンインストールされる――自分しか使えないVimという意味不明なものだった。

しかもこのスキルが解禁されるのは25歳の誕生日を迎えた今日この日とされていた。現在、日付が変わって誕生日の真夜中0時5分。自分のコンピューターに触れてみると確かにVimが起動した。25年ぶりに触るVim。恐ろしいことに転生を世界を超えて、しかも25年も立ってるのに指が操作を覚えている。もはやこれは呪いと言っても良いだろう。

オンラインドキュメントを確認してみる。自分が前世で使っていたところに比べVim scriptがえらく進化している。ラムダはあったが...なんだこのヒアドキュメントや → 演算子は?!

あまりに取り乱して一度Vimを終了させてしまった...冷めたコーヒーを口にし、深呼吸ののちにVimを再起動する。

――なにかがおかしい――

その小さな違和感の正体を確かめるため :intro や :version を慎重に見つめる。この短い時間でパッチバージョンが上がってる? 新しいパッチがリリースされたのか?

確かにVimのパッチは日本の真夜中にリリースされることが多かった。だがそれが異世界に反映されるのはなぜだ? 疑問に思いながらふとカレンダーを見る。あれ? 前世で自分が亡くなったのは――昨日ではなかったか!?

これは仮定だが――おそらくオレが使えるVimは世界を超えて前の世界の同時刻に同期している。前世で過労死する直前、オレは忙しさからしばらくVimの更新を追っていなかった。ヒアドキュメントなどの見たことが

ない機能はその頃にリリースされたのだろう。だとすれば今見ているVimはオレの死後リリースされたもので、決して使えなかったはずのバージョンとなる。

これは考えようによっては非常に便利だ。なにせ自分で最新のVimをコンパイルせずとも、パッチがリリースされた直後に利用できてしまう。

しかし一つだけ気をつけなければならないことがある。Vimは新しく不安定な機能をパッチでリリースすることがあるのだ。この点にだけ気をつければ、というか気をつけようがないので目をつむるしか無いのだが、最新のVimをいつでも使える事実に感動をかみしめた。

どれほどの時間を感動に浸っていたのだろう。覚めてきた頭で、あらためて冷静になって考えてみる。

Vimを使えるのはオレだけだ――しかしそれはつまり――あれほどたくさん前世に存在したVimmerがこの世界には存在せず――彼らによって作られた数多のVimプラグインが――一切ない。

オレはVimプラグインを一切使えず、どうしても必要ならば自作せねばならない、そんな――スパルタンVim――な世界に転生していたのだった。

異業種転職Vim

(あらすじ: 誰もVimを使ってない職場に転職したV君。職務を遂行していく中で徐々に問題が見えてきて...)

くっそ。なんで誰もVimを使ってないんだ。そもそもサーバーサイドにSSHでログインして作業しなきゃいけないって古すぎるだろう? telnetじゃないだけまだまし?でもローカルの秀〇で編集してftpでアップロードじゃ意味ねえだろ。せめてsftpいやscpで上げさせろよ。

(良い子はインフラ管理を自動化しましょう)

う。この作業は急ぎだっけ?しかたないssh越しにVimで作業するか。インストール済みバージョンは...8.0か。やや古いが設定ファイルをいじるくらいだ問題はないだろう。

(業務マニュアル逸脱は自己責任で)

やけに変更箇所が多いな。ふむふむ...これはサーバーのネーミングルールが変わったな。これ前任者は手作業でやってたの? そりゃ見積もり大きくなって当たり前だわ。こんなのは :%s/foo/bar/g で一括で書き換えれば一瞬じゃないか。

(大抵の設定ファイルにとって g フラグは余計かもしれません)

ちょっと置き換えの両パターンが複雑だな。こういう時は検索の / でマッチパターンを確認しつつ構築して :s//bar/g とすれば最後に使ったマッチパターンを再利用できる。これを使わない道理はない。

(なおマッチパターンは @/ レジスタに格納されています)

あ、置き換え後のパターンを間違えた。慌てるなまだ慌てるような時間じゃない。落ち着いてアンドウ u してコマンドライン履歴から置換コマンド

を呼び出して修正して再置換だ。

(Vimのアンドゥは非常に強力で一括置換等も正しく戻せます)

修正箇所左右キーでカーソルを合わせて...Vimにおいてカーソルキーを使ったほうが速い数少ない場面だ。とはいえ複雑な修正なら `q:` か `c_CTRL-F` でコマンドラインウィンドウを開くべきだろう。この修正は単純だから不要だ。

(カーソルキーは指がホームポジションを離れるため忌避されがちです)

よしできた。保存したら次のファイルにかかろう。うぐ。なんだこのファイルは開くだけでやけに重いぞ。カーソルを動かすのすらまならない。このやけに派手なシンタックスが悪さをしているのか？ そういえばネットワークが遅いと派手なシンタックスハイライトは極端な速度低下をもたらすと耳にしたことがあるな。 `:syntax off` を試してみよう。お。速度が改善した。

(高速なネットワークは人権です)

手早く修正を済ませて保存...あれVimが反応しない。サーバー固まった？ それともネットワーク？ ええい仕方ないssh再接続してみるか...できた。

(安定したネットワークも人権です)

さっき使ってたVimのプロセスは殺されてるな。さっきまでの作業は消えちゃったかな？ Vimで開くと...スワップファイルから復帰できそうだ。ヨシ！ 編集内容を復活させて保存して終了だ。要らなくなったスワップファイルを消しておこう。

(Vimではトラブルで編集内容の失うことがほとんどありません)

あとがき

まじめな技術書を書く気力も能力も尽きてしまったので、とにかく楽しんで書けたスパルタンVim 2.0: Vimニンジャスレイヤーみたいなぶっ飛んだ内容にしたいなって思って「異世界転生Vim」なるキーワードをひねり出してみました。

最近「なろう」や「カクヨム」発の転生モノやそのスピンオフを読み漁っていたというのはあるんですが、いかんせん小説っぽいものを書いたことはなく、いざキーボードに向き合うとなにも書けないんですね。そりゃ書かなきゃ書けるようにはならんよねっていう話です。

もうダメかな新刊落としちゃおうかなって言う時に、なんか吹っ切れてそれっぽいテンプレートで書いてみたら、なんとなく形になったのがこの「異世界転生Vim」と「異業種転職Vim」です。

「異世界」のほうは形にはなったとはいうものの、あまりにアタマおかしい設定にアタマ悪い文体で、書いてるこっちが汚染されだしましたので、メインタイトル回収したけどこの先どーするんだよっていうところでタイムアップ。今夏はココまでにいたしとうございます。

「異業種」のほうは「なろう」的な文に初心者向けの技術要素を薄く埋め込んだらどうなるかなってのと、あとは「異世界」のほうのタイトルをもじって、ちょっとリアリティを出せないかなっていう思いつきです。オチがないのと異業種感が弱いのが心残り。

続きはコレを読んだあなたが書いても良いのよ？

2019/08/12 村岡太郎 (a.k.a. KoRoN and @kaoriya)

for Memo

(あなたの考えた「異世界転生Vim」のネタをココに記してください)

